

アッシュモア新興国短期 社債ファンド 資産成長型 (為替ヘッジなし)

追加型投信／海外／債券

日経新聞掲載名：新興短社成無

2020年7月28日から2021年1月29日まで

第 7 期 償還日：2021年1月29日



受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として米ドル建ての新興国短期社債等に投資することにより、相対的に高い利回りの確保と中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行いました。当期についても、運用方針に沿った運用を行い、2021年1月29日に繰上償還となりました。

皆さまのご愛顧ありがとうございました。

 **三井住友DSアセットマネジメント**
〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

当期の状況

償還価額(償還日)	11,159円92銭
純資産総額(償還日)	32百万円
騰落率(当期)	-0.6%
分配金合計(当期)	0円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

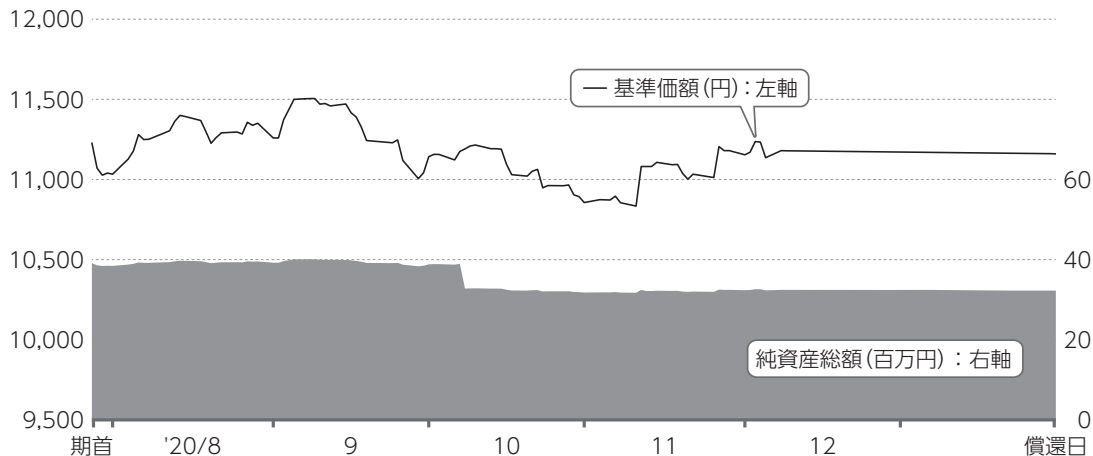
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について(2020年7月28日から2021年1月29日まで)

基準価額等の推移



期 首 11,228円

償 還 日 11,159円92銭

騰 落 率 -0.6%

基準価額の主な変動要因(2020年7月28日から2021年1月29日まで)

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、主として米ドル建ての新興国短期社債等に投資しました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

上昇要因

- 期を通してみると、新興国債券の спреッド(米国債に対する上乗せ金利)が縮小し、新興国社債市場が上昇したこと

下落要因

- 期を通してみると、米ドル安・円高が進行したこと

1万口当たりの費用明細(2020年7月28日から2021年1月29日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	62円	0.555%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 期中の平均基準価額は11,102円です。
(投信会社)	(16)	(0.146)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(44)	(0.392)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.017)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数
(株式)	(-)	(-)	売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数
(株式)	(-)	(-)	有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	1	0.005	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数
(保管費用)	(-)	(-)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(0)	(0.002)	その他:信託事務の処理等に要するその他費用
合計	63	0.560	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

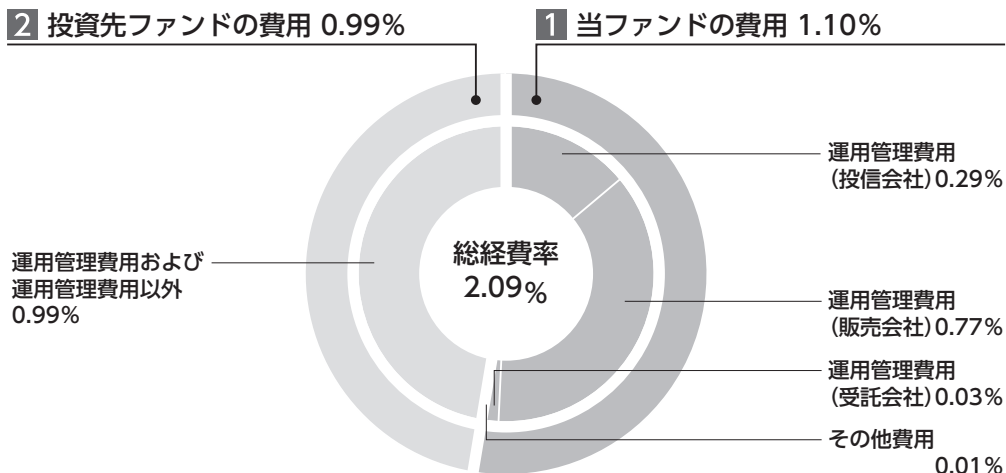
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率(年率換算)



総経費率(1+2)	2.09%
1 当ファンドの費用の比率	1.10%
2 投資先ファンドの費用の比率	0.99%

※**1**の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※**2**の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、実際に投資しているシェアクラスのデータが入手できない場合は、入手可能なファンド全体のデータをもとに委託会社が計算したものです。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を明確に区別できない場合は、まとめて表示しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

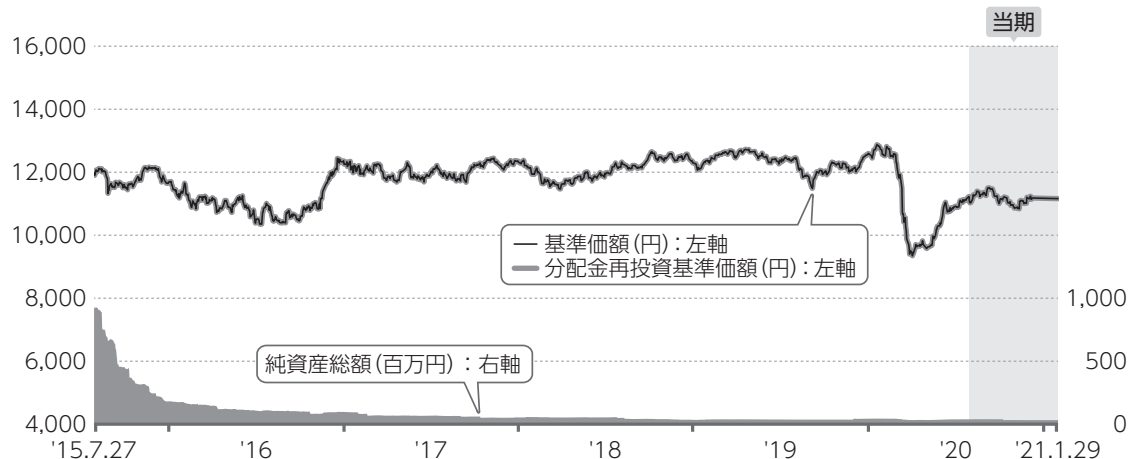
※**1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は2.09%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2015年7月27日から2021年1月29日まで)

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2015年7月27日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載していません。

最近5年間の年間騰落率

		2015.7.27 決算日	2016.7.26 決算日	2017.7.26 決算日	2018.7.26 決算日	2019.7.26 決算日	2020.7.27 決算日	2021.1.29 償還日
基準価額	(円)	11,988	10,928	11,943	12,134	12,426	11,228	11,159.92
期間分配金合計(税引前)	(円)	—	0	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	-8.8	9.3	1.6	2.4	-9.6	-0.6
純資産総額	(百万円)	938	109	66	49	37	39	32

※2021年1月29日の「分配金再投資基準価額騰落率」は、2020年7月27日からの騰落率で、年間騰落率とは異なります。

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

投資環境について(2020年7月28日から2021年1月29日まで)

新興国債券市場は上昇しました。また、為替市場は米ドル安・円高となりました。

新興国債券市場

米回国債利回りは期を通じて見れば小幅に上昇しました。

2020年4月以降、世界的な金融緩和を背景に投資家のリスク選好の姿勢が強まりました。期初以降もその姿勢が継続し、株式市場などのリスク性資産が大きく上昇する中で、米回国債の利回りは緩やかな上昇傾向を示しました。

一方で、新興国債券市場は、世界各国が積極的に金融・財政政策を通じて景気支援策を行ったことなどを背景に投資家のリスク選好姿勢が強まり、期を通じてスプレッドが縮小したことから、上昇しました。特に11月3日のアメリカ大統領選後は、選挙結果はすぐには確定しなかったものの、選挙を終えたことで市場の不透明感が後退し、新興国債券などのリスク性資産に資金が流入しました。

米国3年国債利回りは期首0.17%から期末0.18%に上昇しました。

JPMorgan CEMBI BD 1-3年指数は、4.1%上昇しました。格付け別で見ると投資適格が2.1%の上昇、投資非適格は6.6%の上昇となりました(リターンはいずれも米ドルベース)。

為替市場

米ドル・円相場は、米国の実質金利が大きくマイナス化する中、米ドル需給の緩和を受けて米ドルが他通貨に対して弱含み、通期では米ドルが対円で下落しました。当期の米ドル・円は期首105円82銭から期末104円48銭と1円34銭の米ドル安・円高となりました。

ポートフォリオについて(2020年7月28日から2021年1月29日まで)

当ファンド

「アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド(アンヘッジド・アニュアル・ディストリビューション・クラス)」を高位に組み入れました。

償還に向け、12月上旬に組入れ投資信託およびマネープール・マザーファンドを全て売却しました。

アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド(アンヘッジド・アニュアル・ディストリビューション・クラス)

●デュレーション

ポートフォリオの平均残存期間は1.5年程度としました。

●国別配分

スプレッド水準の高いアルゼンチンの債券、中国の不動産セクター中心に投資を行いました。

●格付け別配分

クレジットリスクと比較してスプレッド水準が高く割安感のある投資非適格債券を中心に、ポートフォリオを運営しました。

マネープール・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について(2020年7月28日から2021年1月29日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について(2020年7月28日から2021年1月29日まで)

償還のため、該当事項はございません。

2 今後の運用方針

償還のため、該当事項はございません。

3 お知らせ

約款変更について

該当事項はございません。

繰上償還について

当ファンドは、信託約款の繰上償還規定の「受益権の口数が10億口を下回る」状態が継続しており、今後も受益権口数の回復が見込み難しく、効率的な運用および商品性の維持が懸念されるため、繰上償還することが受益者の皆さまに有利であるとの判断から、繰上償還の手続きを実施させていただきました。

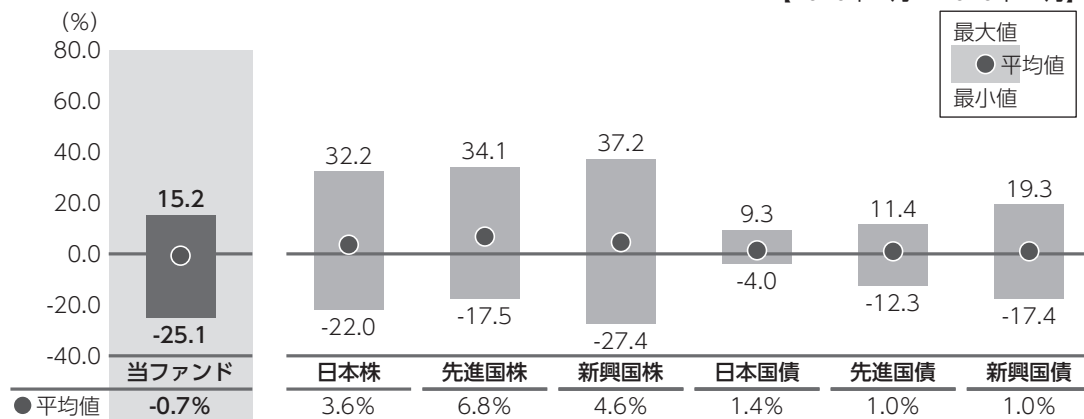
法令および信託約款の規定に従い、2020年12月4日に書面決議を行い、2021年1月29日をもって繰上償還となりました。

4 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／海外／債券
信 託 期 間	2014年7月31日から2021年1月29日(当初、2024年7月26日)まで
運 用 方 針	投資信託証券への投資を通じて、主として米ドル建ての新興国短期社債等に投資することにより、相対的に高い利回りの確保と中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
主 要 投 資 対 象	<p>当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>アッシュモア・エマージング・マーケット・ショート・デュレーション・コーポレート・デッド・ファンド(アンヘッジド・アニュアル・ディストリビューション・クラス) 新興国の社債</p> <p>マネープール・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品</p>
当 法 ン ド の 運 用 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ■主として、米ドル建ての新興国短期社債等に投資することにより、相対的に高い利回りの確保と中長期的な信託財産の成長を目指します。 ■実質的な運用は、アッシュモア・インベストメント・アドバイザーズ・リミテッドが行います。 ■原則として対円での為替ヘッジを行いません。
組 入 制 限	<ul style="list-style-type: none"> ■外貨建資産への直接投資は行いません。
分 配 方 針	<ul style="list-style-type: none"> ■年1回(原則として毎年7月26日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 (基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)</p> </div>

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

【2016年1月～2020年12月】



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	<p>TOPIX (配当込み) 株式会社東京証券取引所が算出、公表する指数で、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄を対象としています。</p>
先進国株	<p>MSCI コクサイインデックス (グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。</p>
新興国株	<p>MSCI エマージング・マーケット・インデックス (グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。</p>
日本国債	<p>NOMURA-BPI (国債) 野村証券株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。</p>
先進国債	<p>FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。</p>
新興国債	<p>JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド (円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。</p>

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

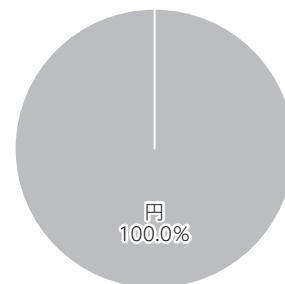
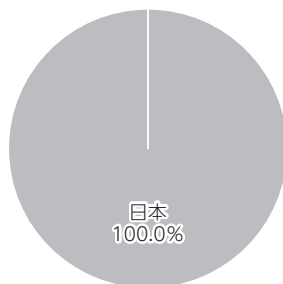
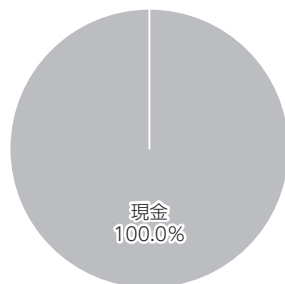
6 当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容(2021年1月29日)

組入れファンド等

※償還日現在の組入れはありません。

資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目		償還日
純資産総額	(円)	32,270,879
受益権総口数	(口)	28,916,774
1万口当たり償還価額	(円)	11,159.92

※当期における、追加設定元本額は0円、解約元本額は5,923,941円です。

7 償還を迎えて

2014年7月31日に設定いたしました当ファンドは、2021年1月29日に償還となりました。

皆さまのご愛顧につき、お礼申し上げますとともに、今後とも弊社ファンドをお引立て賜りますよう、お願い申し上げます。